

# 大妻同窓会千葉だより

発行人 大妻同窓会千葉  
印刷 株式会社山下印刷

発行人 大妻同窓会千葉  
印刷 株式会社山下印刷

## ご挨拶

一般財団法人 大妻コタカ記念会  
会長 井上 小百合

爽やかな季節となり、今年も大妻同窓会千葉の総会が開催されますことをお慶び申し上げます。平素は大妻コタカ記念会にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、この春、北海道新幹線が開業しました。早速お出かけになって、北海道の海の幸に舌鼓を打たれた方もいらっしゃるのでは無いでしょうか。この函館の地に函館大妻高等学校があるのをご存知でしょうか。大正十三(一九二四)年に、大妻を卒業した外山ハツさんによって設立された「函館大妻技芸学校」が始まりで、もうすぐ百周年を迎える歴史ある学校です。

大正七年、当時二十六歳の外山さんは二人の子を親に預け「上京して勉強したい。それを生かして、将来職業的に独立して、社会と家庭に奉仕ができる女性を育成したい」という強い志をもって上京。

大妻同窓会千葉 代表 浅野 久子

## 就任のごあいさつ

青葉が美しい季節になりました。皆様には如何お過ごしでしょうか。

昨夏より大妻同窓会千葉の代表をつとめることになりました。前代表の四宮光枝様の入院、手術ということと急きよ、代表交代となり会員皆様さぞ驚かれたことと思います。突然の指名を受け私にそのような大役がとめられるかと心配でした。代表になる前は会計をしていましたが責任の重さに身の引きしる思いがしました。

役員の方々はその役割

東京の数ある学校の中で、自分の理想に合う学校、それも徳育を重視して学校選びをしたいと一校ずつ回ったのです。大妻コタカ先生に会うなり、もう何校も回ることはない、自分の師と頼む方はこの先生であると決心し刺繍科に入学。在校中には刺繍の他にも各種の手芸を習得し優れた成績を残し、将来の学校経営の大きな力を養ったそうです。

この優秀な卒業生にコタカ先生は「大妻」の名を冠することを許され、函館に全国で唯一の姉妹校として「函館大妻技芸学校」が誕生したのです。学校の教訓は「恥を知れ」、校章は「丸に糸巻き」、校歌は旧校歌のメロディーに歌詞を手直し(コタカ先生が手を入られた)したものを今も歌い継いでいます。

毎年、秋の修学旅行で東京に来る際には、代表の生徒と引率の先生で大妻学院を訪れることが恒例になっており、大妻精神が遠く離れた場所でも脈々と受け継がれていることに感動を覚えます。

外山さんは大妻コタカ先生の追悼録で「今も私は『美しい花を咲かせよう』と思う。雑草になれ、強くたくましく生きよ」というお言葉を座右の銘としておられます」と述べておられます。

「女性の活躍する時代」と旗が振られている昨今、コタカ先生やこの外山さんのように、女性が社会的に活躍できるようにと強くたくましく生き、道を切り開いてきた先人の偉大さに改めて敬意を表し、その精神の継承に努めていきたいと思ふものです。

大妻同窓会千葉が同窓生の力を結集して、息長く発展していくことを心より願っております。

平成二十一年の総会で元代表の加治文子様より代表をお受けしてから、月日の流れは速く、五年余の歳月が流れてしまいました。

振りかえってみますと、その間の一つ一つのことが、懐かしくよみがえってまいります。平成二十三年三月十一日の東日本大震災の時、五月にバス旅行を控えておりましたので、急遽役員会を開き、バス旅行の中止を参加する会員の皆様にご連絡してお知らせした事もありました。

## 第42回 大妻同窓会千葉総会

平成二十七年五月二十三日、市川市文化会館に於いて開催されました。来賓として記念会会長井上小百合様の御出席と御挨拶を頂きました。経過報告、会計報告をし、医師の菊池恭三先生の講演とマジック。手芸はカード入れを作成。



大妻同窓会 42 回総会

## 総会に出席して

萩原 紀子

五月二十三日(土)心地よい初夏の好天気の日で大妻同窓会千葉総会が開催されました。記念会からは大妻コタカ記念会会長の井上小百合先生が御出席になりました。恒例の一年間の活動の報告があり、その後、元日本大学医学部教授の菊池恭三先生の講演がありました。

菊池先生は私の住んでいまずマンションの住人で八十八才とは思えない程お元気で長身でハンサムな方です。ご夫妻共、健康上ご心配もありません。お話しは、お手本にしております。現在も半分は東京で過ごされお仕事もなさっております。お若い頃はアメリカのエル大学でも研究講師もなさってました。専門は耳鼻咽喉科で現在も「いびき外来」で活躍です。テープでいびきの音も聴かされて頂きましたが、あまりの音に驚いたものです。「いびきは死の危険信号」とまで云われるそうです。資料などもご持参下さりわかりやすく講義して下さいました。

残りの十五分間は、先生が学生時代からなさってマージックをして下さいました。聞くところにより、ますます広いお部屋(二部屋)がマジックの道具で一杯なのだそうです。不肖私もほんの少々お手伝いさせて頂きました。マジックはタイミングとムードが非常に大切でとても楽しいものだと思います。このようなお世話は初めてでした。

その後、写真撮影とカードケース

その後、写真撮影とカードケース

## 総会に出席して

今泉 和子

第四十二回総会、平成二十七年五月二十三日(土)市川市文化会館に於いて開催されました。来賓の記念会会長、井上小百合様に御挨拶いただきました。講演会「いびきは健康の危険信号」講師、元日本大学医学部教授、池松記念クリニック院長の菊池恭三先生です。病的な大きいいびきは、睡眠呼吸障害のサイン。日頃から自己診断するよとの事。

朝起きた時頭痛はないか、昼間、居眠り、眠くないか、夜のトイレの頻回、記憶力、集中力低下、精神的不安定などの原因がある。

睡眠中時呼吸が浅くなるのは居眠り運転、作業能率の低下などの社会問題になっている。肝の治療は、脱脂満、耳鼻科で治療が必要。

日常生活では、眠る時の姿勢に注意して、上向きでなく横向きの側臥位にするよとの事でした。

講演後、先生の趣味のトランプ、マジックで和やかな写真撮影、昼食となり、いつもの手芸となり、牛乳パックを利用したカード入れを作り笑顔の散会となりました。

講演後、先生の趣味のトランプ、マジックで和やかな写真撮影、昼食となり、いつもの手芸となり、牛乳パックを利用したカード入れを作り笑顔の散会となりました。



講師のマジック

### 青葉の集い

武藤 恵子

6月7日、ホテルオークラで行われました、青葉の集いに同窓会千葉からは、三名出席しました。第一部の記念会総会、第二部は講演が行われました。演題は、宝生流シテ方、亀井雄二氏に依る「能」の「舟弁慶」を演じて戴きました。今迄私が能を鑑賞するときは衣装をきっちり整えてから演ずる物しか観ていませんでしたが、今回は亀井氏が演ずる前に後見人の方、御本人が衣装の付けかたを最初から

### 秋のバス旅行

四宮 弥生

秋の深まった十月二十一日、すがすがしい日本晴れの中、参加者十一名を乗せたバスは今回から里見交通バス会社に変更しました。車内はゆったりとリラックス感あふれ快適にスタートしました。最初の見学は、花王工場およびミュージアムですがその前に亀戸天神の散策となりました。花王では、案内人のサービ

ス精神の心づくしのおもてなしに創業者長瀬富郎氏が高品質ブランド「花王石鹸」を発売から製品へのこだわり、それから一世紀以上の歴史に渡って心からの満足求め今なお新たな製品を開発続けている社風にふれることができました。少々早目の昼食は、次に見学するトップン印刷博物館ビルの2Fのレストラン「小石川テラス」でした。旬の食材や伝統野菜をそて器にもこだわりを持って一層おいしくいただきました。バスの運転手さんも満足されていました。

ら説明しつつ装着してゆき、舞を演じられる様に仕上げているのが手に取るようにはつきり理解出来ました。一演目に変な時間が掛かる事を知りました。ここ迄年齢を重ねるとや

り日本の芸術は良いなど、つくづく感じ入りました。舞を鑑賞後はおいしいお料理をいただきテーブルの皆様と一時をすごしました。帰路の途中ビルの谷間の「金比羅宮」を参詣致し虎ノ門駅へ。買物をしてりして帰宅致しました。日本芸能の鑑賞をありがとうございました。

お腹が喜んだあとは、印刷博物館に吸い込まれるように日本をただ一つの印刷博物館へ行きましました。印刷の誕生以前を含めて人類が歩んできた印刷文化の歴史を一望する大壁面を間近に見て、開いて、体いっっぱいに偉大さを感じました。

印刷の過去、現在、未来をわかりやすく伝えるため「かんじる」「みつける」「わかる」「つくる」という四つのキーワードに基づいた展示に印刷のさまざまな姿を拝見できました。

### 花王工場とミュージアム

石橋 寿恵

花王の工場敷地内に入るやここが工場なのか、ここで製品が造られているのかという程静かで清潔でした。

まず社屋に入り花王の製品の紹介、海外への展開等の説明。私たちの世代だと花王石鹸と洗剤のイメージだが現在では化粧品、衛生用品と多方面にわたっている。花王は消費者からの苦情や相談に速やかに確実に対応できるシステ

### 石井とめ子先生の講演会

野崎 磨里子

侯爵鶴岡家の服飾品の復元―鹿鳴館時代―  
侯爵家第十一代鶴岡直大夫人栄子様は、イタリアに特命公使として駐在していた直大とローマ公使館にて明治十四年に結婚して、次年十五年に帰国。十六年に英国ジョナナイアコンドル設計による鹿鳴館が落成したので、毎月曜日には前田侯爵夫人、伊藤、井上、佐々木の伯爵夫人を初め、貴婦人、紳士七十余名を招いて洋式舞踏会を催しました。当時の夜会服が総柄製の大名長持の中にウコンの風呂敷につつまれてはいたが、かなりいたみが激しいものでした。そこで石井とめ子先生を中心に助手先生と学生が復元することにになりました。

保存されていた衣装の時代背景など膨大な資料を参考にまとめました。形、布、ししゅう糸、製作等について細部を分析するまでに十年間かかりました。夜会服の布地は当時の小袖をやつとさがし出し参考にして専門職にお願いして織りを復元しました。上衣(ロングジャケット)の袖口、裾のかがりビーズは絹糸の白系二、九四〇・色糸八、〇〇四個をあみながら一つ一ついねいに試作をくり返しながら学生が製作しました。房は白と色糸合わせ五三六、金房は一二七本の糸で一七五個作りました。トレーンは並巾の布を如何つなげるか思案しました。

ドレスは試行錯誤しながら約一年間でようやく栄子夫人着用の大礼服用トレーン、直大着用の仮装舞踏服が見事に復元できました。講演終了後実物を見学致しました。石井先生の研究の深さに感激いたしました。



トップン印刷博物館



花王工場

ムが完備され、改良に実際につながっている。工場内はオートメーション化されて検査、梱包といった最終工程には人が触れない仕組み。博物館では洗濯、洗淨の歴史を知った。



鶴岡直大夫着用の夜会服と鶴岡直大着用の仮装舞踏服

保存されていた衣装の時代背景など膨大な資料を参考にまとめました。形、布、ししゅう糸、製作等について細部を分析するまでに十年間かかりました。夜会服の布地は当時の小袖をやつとさがし出し参考にして専門職にお願いして織りを復元しました。上衣(ロングジャケット)の袖口、裾のかがりビーズは絹糸の白系二、九四〇・色糸八、〇〇四個をあみながら一つ一ついねいに試作をくり返しながら学生が製作しました。房は白と色糸合わせ五三六、金房は一二七本の糸で一七五個作りました。トレーンは並巾の布を如何つなげるか思案しました。

ドレスは試行錯誤しながら約一年間でようやく栄子夫人着用の大礼服用トレーン、直大着用の仮装舞踏服が見事に復元できました。講演終了後実物を見学致しました。石井先生の研究の深さに感激いたしました。

### 大妻同窓会 活動のあゆみ

千 葉

平成27年 5月23日 第42回総会  
6月7日 青葉の集い出席  
6月11日 役員会  
秋のバス旅行の件

### 平成27年度 大妻同窓会千葉会計報告書

6月18日	新しいバス会社と打合せ	3月17日	役員会
6月25日	トップン、小石川テラス、花王の視察	3月21日	総会案内業書発送
7月30日	役員会	4月7日	役員会
8月6日	バス旅行について	4月11日	千葉だよりを印刷会社に提出
8月27日	バス旅行案内文作成と市川の郵便局へ新口座設立願いを提出	5月12日	役員会
9月4日	バス旅行案内状の発送	5月21日	第43回総会
9月10日	役員会		
9月16日	来年度総会について		
10月1日	役員会		
10月7日	バス旅行しめ切り		
10月28日	総会の講演依頼		
11月19日	役員会		
12月10日	役員会		
平成28年	総会の手芸を試作		
1月21日	役員会(新年会)		
2月1日	市川市文化会館のインターネット自動抽選により総会日が決定(5月21日)		
2月18日	役員会		
	年会費チェック他		

### 近況のおしらせ

上田 榮子

急用のため総会を欠席致し申し訳ございませんでした。医学専門の方のお話を楽しみに致しております。

飯田 朝子

総会を欠席しても「千葉だより」で情報を得、様子が変わり感謝しております。

浅野 光代

バス旅行を毎年楽しみにしていたのですが用事があり残念です。次回が楽しみです。

加治 文子

種々お世話さまで。どうぞ今後共よろしく願っています。

田鍋 京子

四宮様お疲れ様でした。どうも。

### 年会費のお知らせ

大妻同窓会千葉の年会費が郵便局から送金できます。☆年会費千円

### 振替口座

加入者名 大妻同窓会千葉  
記入項 I、姓名(ふりがな)

2. 〒、現住所、TEL  
3. 卒業年月日、科

※遡っての納入は不要です。  
※郵便局の備え付けの用紙でお願いします。

計報 読んで御挨拶をお願いします。  
鳥光久子様 84歳  
平成27年11月9日

### 編集後記

皆様の御協力で「千葉だより」43号が出来上がりました。会員の皆様をつなぐ新聞となりますように願っております。

うぞお身体を大切にされて下さい。浅野様これからよろしくお願い致します。  
酒井 恭子  
大妻お世話になっております。バス旅行は東部公民館バザーの値付けのため欠席。  
富田 彰子  
来年こそ旅行参加したいです。

### 大妻同窓会 千葉総会

第43回

日時 平成28年5月21日(日)  
10時半より  
場所 市川市文化会館  
講師 大妻女子大学、大妻女子大学博物館  
教授 真家利生先生

演題 「晩年のコタカ先生の生活」とい